

「校長たより」にアクセスいただいた皆様

「校長たより」にアクセスしていただき、ありがとうございます。今回のたよりも、様々な研修の機会がアップデートできた内容を記載しました。

- ①今年もやりました！ ～ほほえみの会「ほほえみ夏まつり」～
- ②参集型対面式での研修会 大盛会！ ～魚沼フェスタ実施～
- ③津南ひまわり畑のガチャ ～中学部 缶バッジ班の地域貢献～
- ④「愛着障害」について学ぶ ～郡市一斉研修 特別支援教育部研修会～
- ⑤須坂支援学校との新しい交流 ～中学部 紙工班の学び合い、高め合い～
- ⑥お耳を拝借!! (1) 次なる目標 (2) 書籍の紹介

お読みいただき、本校の教育活動にご理解いただくとともに、ご指導ご助言いただきますようよろしくお願い申し上げます。

令和6年8月29日



チームふれあい 27人の先生方へ

「なかよく たのしく たくましく」生きる

子どもの育成を目指して① -0829 職員会議資料-

～自分のできることで、まわりの人を笑顔にしよう！幸せにしよう！～



上松 武

本日から2学期80日間が始まりました。始業式で子どもたちの顔を見て、ほっとした気持ちになりました。大きな事故等なく、2学期をスタートできるのはとても幸せなことです。夏休み後半の活動や研修などで得た学びを生かすとともに、地域や保護者の皆様のご支援とご協力をいただきながら、充実した2学期にしていきたいと思います。

1 今年もやりました！ ～8/2金 ほほえみの会「ほほえみ夏まつり」～



○今年も「ほほえみ夏まつり」を盛大に行うことができました。その背景には、十日町小の学校づくり委員、十日町中のフリーテーマ委員や特別支援学級の生徒の皆さん、読み聞かせの会「ころころりん」の皆さん、そして、たくさんのボランティアの方々のご厚情があったからこそ、心温まる楽しい会になりました。準備や当日の運営、大変ありがとうございました。

○今年は、中庭を利用して水風船ヨーヨー釣りを取り入れてみたり、夜空を彩る何連発もの花火を計画したりしたことで、昨年度とは違った夏まつりになりました。

○前回のたよりで「ほほえみの会」を紹介しましたが、3校にまたがる児童生徒同士や保護者同士の交流の場は、周りを見渡してもあり得ません。

○さらに、障がいのある、なしに関わらず、誰もが楽しめるように、この会を企画運営しています。これぞ、「共生の理念」の一端を表していると思いませんか。



2 参集型対面式での研修会 大盛会！ ～8/7水 魚沼フェスタ実施～

- 当校を会場に、魚沼地区特別支援教育フェスタが行われました。実に5年ぶりの参集型対面式で開催することができました。当日は、魚沼地区5校の特別支援学校の教職員70名余りが参加して、各学校の授業実践から支援方法や教材教具などについて学びました。
- 発表されたポスターが12本、2階の特別教室4部屋を会場にして、前半と後半2回の発表していただきました。各学校の日頃の授業実践から、タブレット端末の活用や地域を巻き込んだ授業づくりなど、多くの学びがありました。
- コロナ禍では、各学校において個々に動画を視聴して授業実践を学んでいましたが、



対話しながら深める場と時間のよさが、今回の開催から強く感じることができました。

- 「主体的・対話的で深い学び」を各学校でどう推進していくのか、大きな研究テーマになっていると思います。私たち教職員が発表者と主体的に、かつ対話をしながら、自分の学びを深めていく研修としてとても有意義でした。
- 企画運営してくださった魚沼地区特別支援学校の研究主任の皆様、本校の研究委員会の皆様、大変ありがとうございました！

3 津南ひまわり畑のガチャ ～8/10土 中学部缶バッジ班の地域貢献～



- 今年も津南町のひまわり畑にガチャが写真のように設置されました。ガチャの中身は、ジッパー付の袋に津南町の観光名所がデザインされた缶バッジが一つと、四隅を合わせて折り畳まれた説明書です。
- ガチャをやってきました！（ひまわりよりもガチャ目的でした）。何が出てくるのか、ワクワクするものですね。ガチャを手にしたとき、生徒たちが真剣に心を込めて一つずつ仕上げている光景が目につかびました。
- ふれあいの丘支援学校中学部の名前が缶バッジにも説明書にもなかったのが寂しかったですが、「地域の活性化に貢献しているぞ」と誇らしく思えて嬉しくなりました。

4 「愛着障害」について学ぶ ～8/21水 郡市一斉研修 特別支援教育部研修会～

- 今年度の郡市一斉研修では、東京学芸大学准教授の池田吉史様から「愛着」とその役割について学びました。部員以外の方々の参加もあり、関心の高さがうかがえました。
- 以下に、大事な内容を思ったことを、池田先生の講演資料を参考に記載しました。

愛着とは

- ▶特定の人と結ぶ情緒的なこころの絆（米澤、2018年）
 - 1 誰とでも結べるが、多くの人と同時に結べない
 - 2 感情の共有に基づいて育まれる
 - 3 安定した関係によって支えられている

愛着の機能

- ▶安全基地：恐怖や不安などのネガティブな感情から守る
- ▶安心基地：落ち着く、ほっとする、癒される、気が楽になる
- ▶探索基地：安心・安全基地から離れる、安心・安全基地に戻る、探索から戻ってきて、自分の行動・経験を報告することでポジティブな感情が増大

愛着形成の要因

- ▶スキンシップ（タッチ、接触）
- ▶共感的応答
例）転んで泣いている幼児を抱きかかえて、「痛かったね」と声を掛ける。
- ▶一貫したかかわり
かかわってくれるときと、そうではないときとの差が非常に大きいと×である。
◎いつもそばで見守ってくれ、必要な助けを与えてくれる存在に対して、特別な結び付きをもつようになる。

- 「愛着」は子どもと養育者との関係性で育まれます。子どもからの発信を養育者がどう受け止めるのか、受け止めたことを状況に合わせて、養育者がどう返信するのか、簡単そうで、とても難しい関係づくりだな～と改めて考えさせられました。
- 気になる子どもの問題行動の背景には、愛着の問題が潜んでいるのではないか、という池田先生のお言葉を頭に置きながら、子どもたち一人一人と向き合っていかなければと気持ちを新たにしました。

5 須坂支援学校との新しい交流 ～中学部 紙工班の学び合い、高め合い～

- 本校と十日町小学校のように一体型となって学校運営がなされている須坂市立須坂支援学校の先生方の訪問をきっかけに、学校たよりなどを通じた交流が昨年度から始まりました。
- 今年度の須坂支援学校の学校たより「Rainbow 運動会特集号 No. 63」を拝見していたら、

中学部 校内実習



包装はがし→ミキサーで攪拌→ 脱水 → 攪拌 → 袋詰め → 完成

中学部では校内実習に取り組んでいます。油吸い取り紙「油吸い取りますぞうさん」の製作、「キノコキャップ」の洗浄を行っており、一連の作業をみんなで分担しながら行っています。作業中はとても集中して、黙々と取り組んでいる姿があります。また、エプロンを着けたり、身支度を調えたり、タイマーで時間正確にミキサーをかけた後、終わった報告をしたりして、ルールを守りながら作業に取り組んでいます。「油吸い取りますぞう」は油をとってもたくさん吸い取るそうです。たくさんお買い上げいただき、油を捨てる時に活用ください。

中学部の校内実習の様子が紹介されていきました（左写真）。そして、校内実習で取り組んでいる活動が、なんと「油吸い取りますぞうさん」の製作でした。本校中学部も「油吸い取りパック」の試作中。先日学習参観に来られた保護者の方々に試作品をお配りして使い心地をリサーチしているところでした。

○そんな状況の中、「須坂支援学校さんでも、同じことに取り組んでいる！ お知恵をお借りながら技術開発を一緒にできないかな…。例えば Zoom を使って先生方同士のやりとりから始めてみるのは、どうかな…」と紙工班担当の先生方に話してみたら、ぜひやってみたいという回答。

○おたよりの交流から、学習活動での交流へと一歩前進！どんな学びをお互いにするのか、とても楽しみです。

6 お耳を拝借!!

(1) 次なる目標

- ・ 7月25日(木)に森本後援会長様から、三施設合同「夢の学校づくりフォーラム」で「夢の学校づくり」のお話をお聴きし、本校がこの先目指す教育活動は、「在学中から学校卒業後の日常生活が潤いのあるものにするための教育活動に取り組むこと」だと考えるようになりました。
- ・ 学校教育は6歳から18歳までの12年間。その後の長い人生は生まれ育った地域で生活します。その生活を支える学びについて、次の視点で考え、授業改善を進めていきたいと考えています。

△「どんな力を身に付けておけば、50歳、60歳になっても困らずに生活できるのか」

△「そのためには、学校は地域の方々ともっと協働した学びを展開しなくてはいけないのではないか」

△「地域にある公共施設を利用しながら、そこで働く方々に本校の子どもたちのよさや頑張りを知ってもらう必要があるのではないか」

- ・ まだまだ漠然としていますが、「チームふれあい」全員で考えていきたいと思っています。

(2) 書籍の紹介

○「明るい人」の科学 和田秀樹著 株式会社クロスメディア・パブリッシング



昨年度もこの本よりで紹介しました。なるほど！と思った部分を引用しました。

□笑顔の人と一緒にいると、その人につられて自然に笑顔になるという経験をしたことがあると思いますが、それは「エンドルフィン」の働きによるものと考えられています。笑顔の人につられて一緒に笑うと、周囲の人たちの脳内でもエンドルフィンが放出されるため、一体感や安心感が生まれます。人に笑いかけることは、「私

はあなたの敵ではない」ということを相手に伝えるだけでなく、相手

手を笑顔にして、その人の気分を明るくする効果があるのです。(P17～P18 引用)

□人生がうまくいく明るい人というのは、決してポジティブ思考とかプラス思考ということではありません。「今よりよくなりたい」と思っているということです。これは非常に大事なポイントで、社会的に成功した人や楽しそうに毎日を過ごしている人の多くは、つねに「今よりよくなりたい」と考えて行動しています。

(P42～P43 引用)

○侍ジャパンヘッドコーチの最強の組織をつくるすごい思考法

白井一幸著 アチーブメント出版株式会社



この本も昨年度紹介しました。私自身が参考になっている部分を紹介します。

□チームビルディングの柱は3つです。まずは、全員が目的・目標を自分事として共有することです。そして、そのゴール達成に向けて、組織のすべての人に与えられた役割があります。2つ目は全員が役割と責任を全うすることです。(中略) 完璧な人間はいないので、できるできない、立場の強い弱いによって役割責任を果たせない人がでてきます。(中略) そこで、3つ目として関わり合う必要が出

てきます。(P10~13 一部引用)

□多く的人是はやってあげてる。してあげてる感を出してしまいます。利他というのは、自分を差し置いて人のためにすることではありません。それをするに自分が喜びを感じるからするのです。相手を幸せにすることが自分の幸せだから一生懸命になるのです。(P152 引用)